

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2020/12/31	2021/7/31	2021/8/6	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	27,444.17	27,283.59	27,820.04	30,714.52	2021/2/16	16,358.19	2020/3/19
NYダウ	ドル	30,606.48	34,935.47	35,208.51	35,246.79	2021/8/6	18,213.65	2020/3/23
円/ドル	円	103.25	109.72	110.25	114.55	2018/10/4	101.19	2020/3/9

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～ 良好な4-6月期決算や米経済指標を背景に上昇～

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+536.45円(+1.97%)、TOPIXが+28.26ポイント(+1.49%)となり、良好な4-6月期決算や米経済指標を背景に上昇しました。業種別(東証33業種)でみると、海運業、精密機器、鉄鋼などの24業種が上昇した一方、空運業、その他製品、陸運業などの9業種が下落しました。週初の2日は、先々週末に大幅下落した反動に加え、本格化する4-6月期決算において事前予想を上回る業績を発表した企業が多かったことなどから、大幅上昇して始まりました。その後週半ばにかけては、新型コロナウイルスのデルタ株に対する警戒感が根強い中で、空運業や陸運業など感染拡大の影響が大きいセクター中心に売り優勢の展開となり、やや軟調に推移しました。週後半は、東京都の新規感染者数が初めて5,000人を上回ったことや、「まん延防止等重点措置」の適用対象が拡大されたことなどが上値抑制に働きましたが、①米ISM非製造業景況指数が史上最高値を更新したことや米失業保険の継続受給者が大きく減少したことなどから、供給制約を背景とする米景気の減速懸念が後退したこと、②4-6月期決算では市場予想を上回る内容や通期業績の上方修正が相次いだことなどが支えとなり、底堅く推移しました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
8月10日	Tue	日本	景気ウォッチャー調査現状	7月	47.6
			景気ウォッチャー調査先行き	7月	52.4
8月11日	Wed	ドイツ	ZEW期待指数	8月	63.3
		米国	CPI(除食品・エネルギー/前年比)	7月	+4.5%
8月12日	Thu	欧州	ユーロ圏鉱工業生産(前月比)	6月	▲1.0%
		米国	PPI(生産者物価指数)(除食品・エネルギー/前年比)	7月	+5.6%
8月13日	Fri	米国	ミシガン大学消費者信頼感指数	8月	81.2

決算発表予定 他	国内	決算発表 :	8/10 大和ハウス、日産化、ブリヂストン、ソフトバンクG、INPEX、近鉄GHD、日本ペイントHD、キリンHD、T&DHD、日本新薬、アサヒGH、GMOPG、飯田GHD 8/11 電通G、ゆうちょ銀、楽天G、日本郵政、東急、ネクソン、かんぽ生命、SMC、第一生命HD 8/12 明治HD、ルカリ、ラクス、リクルートH、サントリー食、JFEHD、住友不動産、ヤマHD、マツHD、トヨタマイクro、東芝、光通信 8/13 ENEOS、三菱HCキャピタル、朝日インテ、日本通運、富士7HD、オープンH
	海外	決算発表 :	8/10 コインベース 8/11 ブルーデンタル、イーベイ、聯想集団 8/12 百度、鴻海精密工業、トヨタダッシュ、ウォルト・ディズニー、エアビーアンドビー

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～ 景気や企業業績の改善期待が株価上昇材料となるも、新型コロナウイルスの感染拡大懸念から上値の重い展開～

今週の日本株市場は、景気や企業業績の改善期待が株価上昇材料となるも、新型コロナウイルスの感染拡大懸念から上値の重い展開が続くとみられています。

先週までに発表された国内主要企業の4-6月期決算は事前予想を上回る企業が多く、先行きの業績上方修正期待は維持されています。また、先週発表の米経済指標では、①ISM製造業景況指数は事前予想を下回りましたが、好不況の節目である50を大きく上回っており、米景気の後退を懸念する水準ではないこと、②週末の雇用統計は事前予想を上回る結果であったことなどから、世界経済をけん引してきた米景気の好調さは当面続くとみられており、株価上昇材料に働くと予想します。但し、新型コロナウイルスを巡り、国内における新規感染者数の増加傾向に歯止めがかからないことや、米国においても1日当たりの感染者数が過去最多を更新するなどデルタ株の脅威が高まっており、上値を追う展開にはなり難いとみられています。

その他の注目材料として、日本では10日の景気ウォッチャー調査、米国では11日のCPI、13日のミシガン大学消費者信頼感指数、欧州では12日のユーロ圏鉱工業生産、ドイツでは10日のZEW期待指数などが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.

URL: <http://www.alamco.co.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、「当社」といいます。)が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。